



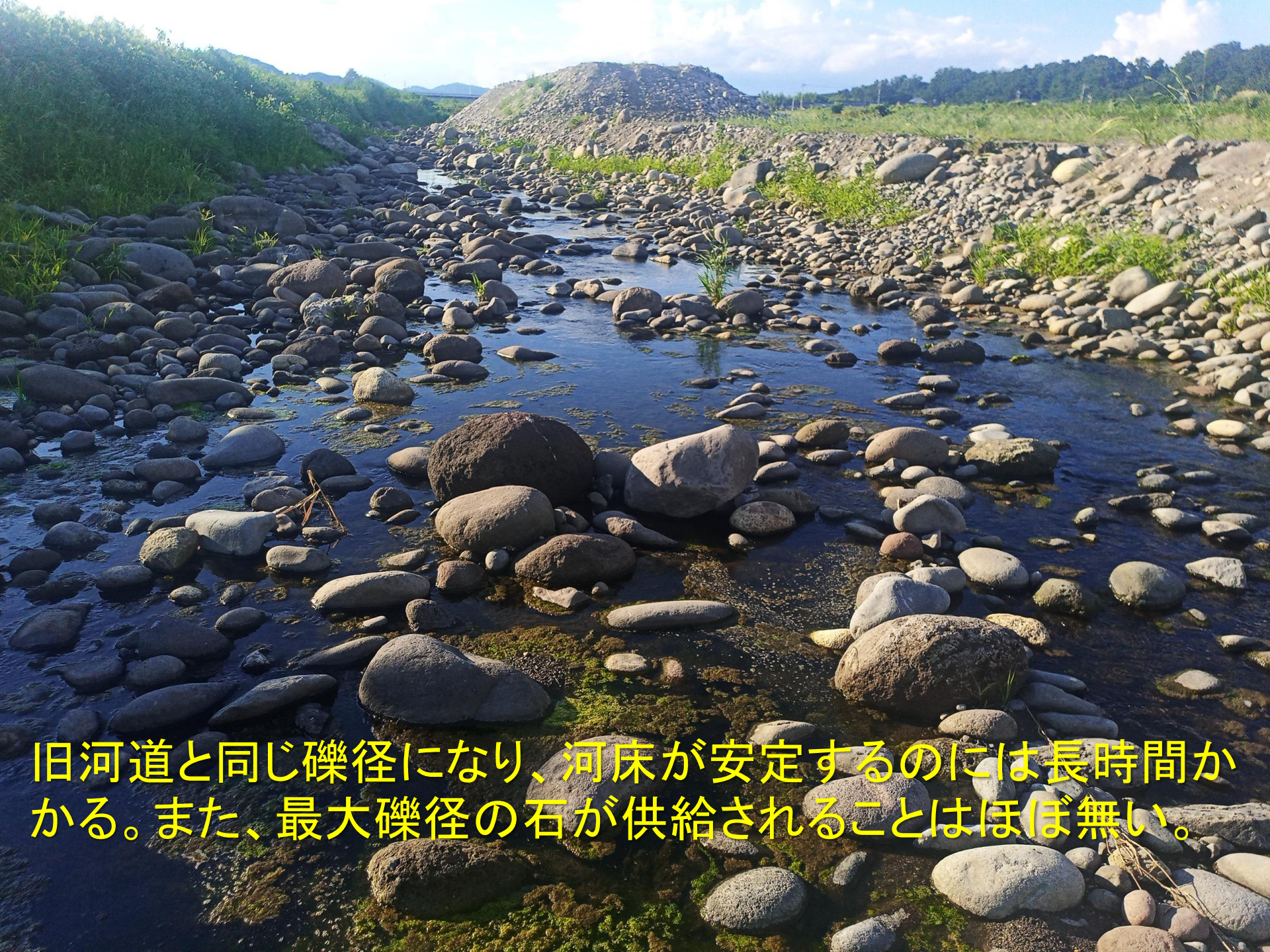
河床の礫径は、瀬と淵により決まってくる



河床を掘削し、直線化すると



河床材料の粒径は小さくなり、河床が安定するまで、礫径が小さいものは下流へ流出する。



旧河道と同じ礫径になり、河床が安定するには長時間かかる。また、最大礫径の石が供給されることはほぼ無い。

■川づくりのポイント2:「玉石・巨石」を持ち出さない

(近自然工法研究所 有川さんの資料を一部改変)

<瀬の河床断面(中流部の例)>

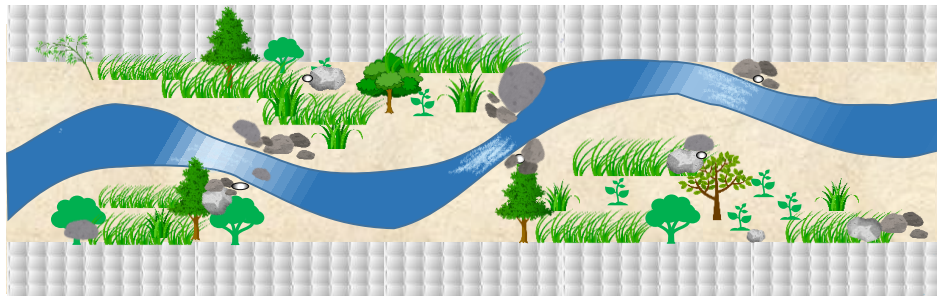


中流～上流域の「瀬」では大きめの石(玉石・巨石)が川底を覆うことで、瀬の急な勾配が維持されている(アーマ層の形成)。その川底(玉石底)はアユなどの餌場にもなる

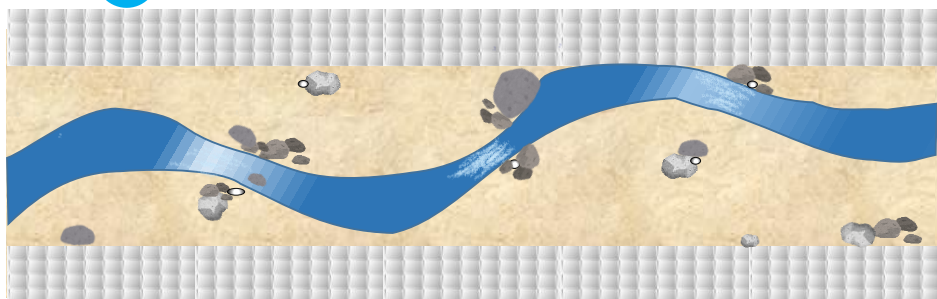
河川工事では、瀬が形成・維持されるために必要な「玉石・巨石」を川から持ち出さないこと。また、瀬のアーマ層をできるだけ破壊しないことが大事である

施工例 (平面図)

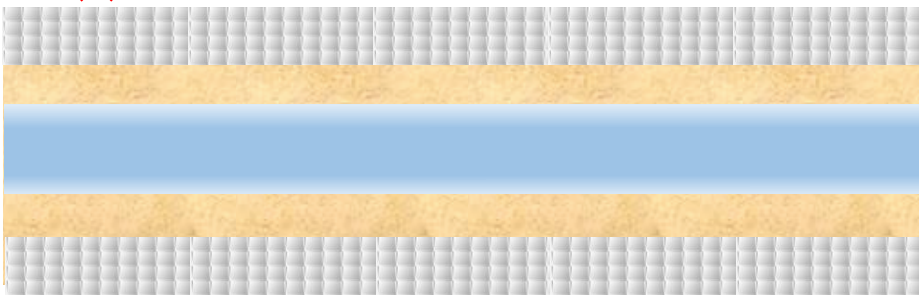
土砂堆積+樹林化



○ 優良事例: 流路形状の維持、石の残置

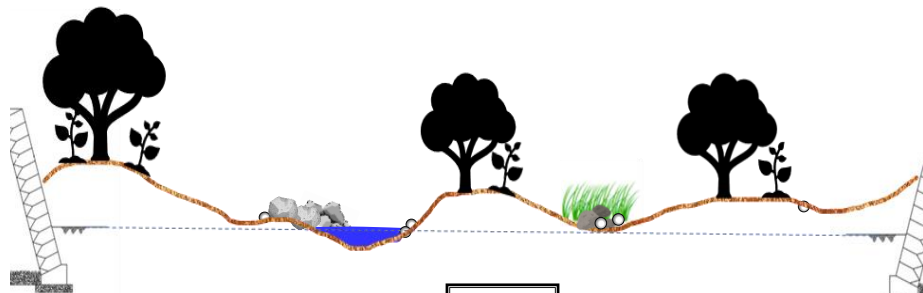


✗ 悪い事例: 流路の平坦化・直線化、礫や石の撤去

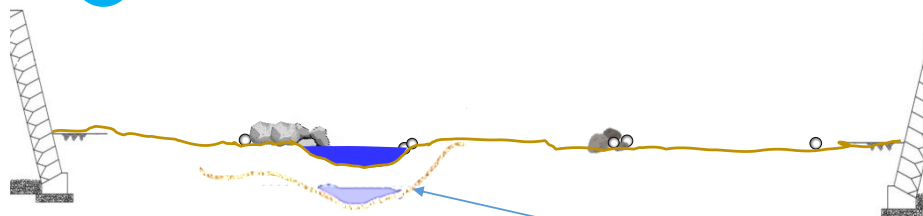


施工例 (断面図)

土砂堆積+樹林化



○ 優良事例: 流路形状の維持、石の残置



流下断面が不足する場合にはスライドダウン

✗ 悪い事例: 流路の平坦化・直線化、礫や石の撤去

